

ぐんぐん↑↑2024

R7.2/26



第10号 ↑本校HP

雨水の候、ますますご盛栄のことと思います。保護者の皆様には本校の教育活動や家庭での学習活動にご理解ご協力いただき、ありがとうございます。先日は「6年生ありがとう集会」も盛会のうちに無事行うことができました。早いもので3学期も残り1ヵ月ほどもです。これからを良いまとめの時期にしたいです。

◇◇「見直し上手は、勉強上手！」◇◇

※例えば、算数の問題で考えてみると…



解くぞ！

見直すぞ！

数を正しく書いている？
いくつ答えを選ぶのか？ 公式はあっているか？
数字の書き間違えはないか 約分・通分は？
小数点や位をそろえている？ 正しい単位？
繰り上がりと繰り下がり？ 0の処理・場所は？
順序正しい式か？ 丁寧に名前を書いたか？
目盛りは？ 計算間違いや解き忘れ（空欄）はないか？
答え方（～から、記号で、番号で）は合っている？…

→ざっと見直しポイントがこれぐらい思いつきます。

テストをしている時、家で宿題をしている時、
学校でプリント学習をしている時…、子ども達は

しっかりと「見直し」をしていますか。よく子ども達には『見直し上手は、勉強上手！』と声をかけます。

算数の学習では、「見直すちゃんとしていれば、絶対に気付くのにもったいない！」と思う単純ミスがよく見られます。自分では解き終わったら、全部解けていると思い込んで、つい油断してそのままにしてしまいます。そこで、解き終わった後に一度気持ちをリセットして、もう一度0（ゼロ）から問題を解き直すような気持ちで見直しをすることが大事です。例えば、算数の問題を解いた時には、上記のような見直しのポイントが考えられます。内容によっては「長さは正しいか」とか、「図形は正確に描くことができるか」なども考えられるでしょう。

それでは、国語ではどうでしょう。「きちんと問われていることに正しく答えているか」、「習った漢字・カタカナは使っているか」、「送り仮名は正確か」、「正しい・合っている漢字か」、「っ（促音）やー（長音）・やゅ（拗音）の使い方はいいか」、「、（句点）や。（読点）は正しく付けたか」、「理由の書き方（～から、ので）は正確にできているか」、「正しい接続の仕方をしているか」…など、こちらも問題によって様々ありそうです。特に、1つ目の「きちんと問われていることに正しく答えているか」は、右の例のように、余計な部分まで答えに書いている場合が多く、文章中から必要な部分だけで答えず、必要な部分の前後の不要な文章まで書いてしまっている場合が多いです。

こういったミスや間違いを減らすために、国語の学習の見直しのコツとして、「一度書いた文章や答えを読み直す」ことが効果的です。問題を読み、正しくこたえているか、できれば小さな声でいいので声に出して読むと間違えた言葉遣いや言い回しに気付くことができます。

国語算数以外の教科の学習でも見直しは大切です。見直しの仕方が上手になると、間違いが減り、内容も正確に理解し、表現できるようになります。ぜひ、低学年のうちから見直し上手になってほしいです。「見直し上手は勉強上手だ！」を合言葉にして、学校でもご家庭でも一緒に丁寧な見直しができる子ども達を育てていきましょう。

↓（例）4年生国語テスト「数え方を生み出そう」より

★ 次の文章を読んで、問題に答えましょう。

● 国語の勉強で新しい生み出した例文を説明した文章。

① 数え方は、今あるものを正しく覚えて使うだけでなく、新しく生み出すことだってできるのです。そんなことができるのかと思うかもしれませんが、日本語のあゆみの中では、めずらしいことではありません。

② 例えば、馬のように大きな動物を数える「二頭」は、明治時代に新しく生まれたものです。海外の本に書かれていた、動物を数える「ヘッド」という言葉を、日本の学者たちがヒントにしたのです。「ヘッド」は、英語で「頭」の意味で、動物の頭数を数えるときにせん門家たちが使っていました。それまでの日本語では、馬でもネコでも「匹」と数えていたのに、動物の大きさのちがいを数え方で区別するの、新しい発想でした。

③ その後も、数え方

○（正解）は…

③ 「新しい発想」とは、どんなことですか。

（動物の大きさのちがいを数え方で区別すること。）

① 「新しい発想」がどんなことなのかだけこたえる。

② 「どんなこと」ときかれているので、「～こと」と正しくこたえる。

×（誤答）としては…

③ 「新しい発想」とは、どんなことですか。

（それまでの日本語では、馬でもネコでも「匹」と数えていたのに、動物の大きさのちがいを数え方で区別するのは、新しい発想でした。）

② 「～こと」でこたえていない。

◇◇1月・2月のノーテレビノーゲームスマホデー結果です◇◇ ☆ は、今回気になるところ！

学年・月	1年生 42人		2年生 36人		3年生 34人		4年生 49人		5年生 35人		6年生 36人		全校 232人	
達成率(%)	1月→2月		1月→2月		1月→2月		1月→2月		1月→2月		1月→2月		1月→2月	
①ノーテレビ	80	83	91	91	97	100	84	84	94	88	100	100	83	83
②ノーゲーム	85	85	97	100	97	96	91	95	91	97	100	100	85	86
③ノースマホ	80	80	97	97	100	100	88	88	97	97	100	100	86	85
④学習時間平均	26分	26分	45分	44分	60分	58分	52分	49分	74分	75分	96分	99分	59分	58分
⑤読書時間平均	18分	18分	32分	29分	34分	29分	28分	27分	44分	42分	48分	60分	34分	34分
○ほかほか読書	90	98	100	100	97	100	95	98	97	97	97	100	87	90
⑥家の仕事	93	95	100	97	100	100	95	95	97	97	100	100	89	88
⑦筆箱チェック	98	95	100	97	100	100	95	93	100	100	100	100	91	89
提出者数	41人	40人	35人	35人	30人	26人	43人	43人	32人	33人	32人	29人	213人	206人

※欠席等があるので、提出できた子の分で割合を出しています。

1月、2月とノーテレビゲームスマホデーへの取り組みありがとうございました。結果は上記の通りです。さすがの6年生という結果が出ています。5年生もですが、高学年がいい手本となっています。ぜひ他の学年も見習ってほしいです。逆に1月も2月も1、4年生をはじめとして全体的に①②③がもう少しがんばれるといいです。月に一度の機会ですが、日々の中で時間や期間を設けてこういった機器(スマホ等)から離れる機会も大切です。合わせて4年生は、高学年になることを見通して、学年に応じた学習時間に時間を増やしたいところです。

さて、今回は枠で囲んでいる「④学習平均」に注目します。ノーテレビゲームスマホデーカードにも載せているように、毎日の学習時間目安は『学年×10分+10~20分』が目安です。例えば、4年生なら「4×10分+10~20分」で『50~60分程度』となります。当然、その日の用事や状況によって増減することはあると思いますが、やはり学年が上がるにつれて、「宿題だけして終わり!」ではなく、宿題に加え、今の自分に必要な予習や復習を少しずつ追加してほしいと考えます。「学習の質」は当然大事ですが、変わらぬくらい「学習の量」も大切です。全体的にはおおむね順当に学習時間が増えていると感じます。

◇◇子どもの達成感を高めるには…?◇◇

子ども達の学習において『達成感』を得ることはとても大切な動機付けになります。ここでいう達成感とは、周りの人から認められると感じて得られる達成感、言わば「外的からの達成感」のことです。

まず、言えることは、達成感を持つことができると子どもは次のような良さを感じます。①認められているので、自己肯定感が高まる、②何にでも意欲的にチャレンジする姿がある、③最後までがんばる力がある、④周りの大人の言葉を信じている、⑤自信を持って主体的に活動できる、などです。

これらを子ども達に感じてもらうために、学校や家族ができることは周りの大人(親、保護者、地域)が「あなたのがんばり、やっていることをしっかり見ているよ。認めているよ。」と表現することだと思います。

ここで大切なのは、そのがんばった後の結果がうまくいってもいかなかったとしても、その過程を含めて認め、励ましてあげることです。「結果だけを認めるのではなく、がんばっている過程も含めたその子自身を認めてあげる」のです。学校では授業の中で行い、家庭では日々の家庭学習(宿題等)で行い、それらを認めていきましょう。特に、保護者の方が書いていただくサインやコメントの欄がプリントやノート等にありましたら、短くても結構ですのでぜひ一言応援コメント、認めコメントを書いていただきたいです。その励ましは文字として残るので、声かけよりも子ども達にとってより効果的に達成感や満足感につながっていきます。担任からも保護者さんからも「あなたのがんばりを認めているよ。」とメッセージを送っていきましょう。ほめられた子はきっとぐんぐん力がついていきます。

ファイト〜!・見てるよ!

